

2019. 1. 8 (火)

Let It Be—新年を迎えて

打 樋 啓 史

思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけ
ていてくださるからです。 (ペトロの手紙Ⅰ 5章7節)

新年のテーマソング “Let It Be”

学期末となり授業の最後の一週間となりましたが、新しい年2019年を迎えて最初のチャペルです。そこで今日は、私にとってここ数年「新年のテーマソング」となっている歌について話したいと思います。それは皆さんもきっとよく知っている名曲、ビートルズの“Let It Be”です。名義は「レノン＝マッカートニー」ですが、実はポール・マッカートニーが単独で作詞作曲し、リードボーカルもつとめている歌です。なぜこの曲が私にとって新年の曲かという、2年前のお正月にこんなことがあったからです。

その頃、私は代務牧師として小さな教会の責任をもっていました。その新年は元旦が日曜日で、礼拝があり、私が説教をすることになっていたので。しかし、どうも年末モードでなかなかエンジンがかからなくて、大晦日になってもまだ十分に納得のいく準備ができていなかったのですが、もう深夜を過ぎて午前になったので、とりあえず形にして、翌日に備えて眠りました。それで、朝になって目覚める前に、夢だったのか何だったのかよ

く分からないのですが、とにかくある音楽が自分の頭の中に流れていたんです。それがビートルズの“Let It Be”でした。

実際にこの曲がかかっていたわけではないんです。前夜にポール・マッカートニーが紅白歌合戦に出ていて、その部分を見ていた影響かもしれませんが、なぜかはっきりと“Let It Be”が自分の中で聞こえていました。それできっと朦朧とした意識の中で、「う～ん、えっ、Let It Be?これや!」と飛び起きて、机に向かったのです。というのは、昨夜納得のいかないまもりあえず仕上げた説教に、この“Let It Be”という歌が、その歌詞が大いに関係があったからなのです。そうして、この曲の説明を入れて説教を書き直し、ぎりぎり間に合って、前夜のものよりずっと納得のいく内容になったのでした。まさに、“Let It Be”が降りてきたという感じです(笑)。これがその年の元旦の朝の出来事で、以来、“Let It Be”が私の新年のテーマソングとなっているというわけです。

“Let It Be”の宗教性

言わずと知れた名曲ですが、どういう歌でしょうか。実は、非常にキリスト教色の強い作品です。“Let It Be”とは、直訳すれば「そのままにしておく／そのままにしておきなさい」という意味ですが、これは聖書からとられた言葉なのです。皆さんにお配りした歌詞を見るとこうありますね。

僕が苦境にいたとき、Mother Mary が現れて、叡智の言葉をくれた。“Let It Be”

“Mother Mary”は「マリア様、聖母マリア」、つまりイエスを産んだお母さんです。実は、“Let It Be”というタイトル／歌詞は、マリアがイエスを身ごもる前に天使からお告げを受けたとき、恐れつつも、「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカによる福音書1章38節）と言ったその言葉で、そこから取られているのです。

ビートルズのメンバーの内、ジョン、ポール、ジョージの三人はアイリッシュ系で、家の宗教はカトリックです。カトリックではマリア崇敬が大切にされ、マリア様の出現や奇跡の話がたくさんありますね。この曲で、“Let It Be”（そのままでもいい）は今言ったようにマリアが天使に話した言葉に基づくもので、そこには明らかに宗教的な意味が含まれています。つまり、単に「放っておく」というだけでなく、「神の御計画・思召しのままに任せる／委ねる」「神に任せて、あるがままに状況を受け入れる」という意味合いです。そういう宗教的な色彩の強い曲で、それはオルガンを使ったり、ゴスペル風のコー

ラスを取り入れたりした音楽のアレンジにも見られます。

ポール・マッカートニーの苦悩とその先に見えたもの

この曲が作られたのは1970年、ビートルズ解散の直前でした。デビューしてから4人でひたすら突っ走るように世界の音楽界に影響を与えてきたビートルズでしたが、音楽性のズレ、ジョン・レノンの妻となるオノ・ヨーコの登場などで、最終的に人間関係がうまくいかず、解散を免れなくなりました。特にポール・マッカートニーは、「自分のすべてであるビートルズがなくなるなんて受け入れられない」と深く苦悩していました。そのような辛い時を経て、ポールはこのような境地に達したのです。「あるがままの状況を受け入れよう。じたばたと、カづくで、無理やりそれを阻止したり、変えようとしたりするのでなく、そこから何かが始まると信じて、任せてみよう。委ねてみよう。」だから、“Let It Be”は、「叡智の言葉」であり、「答はそこにある」と歌われます。暗闇を突きぬけて一条の光を見つけたような、張り詰めていた自分から解放されて、ふっと肩の力が抜けて自由になったような、そんなポールの姿を感じることができます。

このように“Let It Be”とは、「自分の力で将来のすべてをコントロールし、保証しようとする」という姿勢とは異なり、まさに今日読んだ聖句にもあったように、聖書やキリスト教の核となる価値観を示す言葉です。つまりそれは、宗教的な表現で言えば、「神への信頼」に生きるということです。もちろん、“Let It Be”とは、目の前にある状況に

対して何もしない、無関心、無責任ということではありません。人間の力でできることを行うこと、努力することは当然大切です。決して、「逃げ」の言葉ではありません。しかし、人生には、いくら何とかしようとしても何ともならないこともあるし、自分は必死に変えようとしているけれど、実のところそれを変える必要はないということもあります。いくら望まなくても、それが自分の計画や思いとは違っても、それはそれとして受け入れて、未来に任せてみるしかないこともあると思います。“Let It Be”という曲は、それが決して絶望するべきことではなく、むしろそこに自分の思いを超えた希望があることを歌っているのです。

置かれたところで咲きなさい

カトリックのシスターで渡辺和子さんという方が、2016年12月30日に逝去されました。宗教家としても、教育者としても、素晴らしい働きをされた方で、その著作『置かれたところで咲きなさい』は宗教を超えてベストセラーになりました。その中で、やはりシスター渡辺も、“Let It Be”と同じことを言っておられます。その本から、ひとつの言葉を紹介したいと思います。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そ

んな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花がより大きく、美しいものとなるために。

新年を迎えて、皆さんには色々な目標や抱負があり、取り組むべき課題もあるでしょう。また同時に、様々な心配や思い煩いもあるかもしれません。まずは、今日の聖句のように、大きな力に守られていることを信じて委ねるところから、一年を歩み出すことができればよいですね。課題には精一杯取り組んでいってほしいと思いますが、それらが計画通りにはいかなかったり、思い通りにならなかったりすることもあるでしょう。あるいは、まったく違う課題に向き合わねばならないこともあるかもしれない。

そんなとき、どうか思い出してください。“Let It Be”という言葉。「叡智の言葉」として。「何で思い通りにならないんだ！」と嘆いたり、失望したりするのではなく、そんなときは状況をこのようにとらえてみてください。「とにかくそのまま任せてみよう。大丈夫だと信じて受け入れよう。無理に咲くのではなく、根を張るときとして。」そうすれば、きっと別の一步を踏み出すことができるはず。では、最後に“Let It Be”をCDで流すので一緒に聞きましょう。2019年が、皆さんにとって祝福に満ちた一年になりますように！

The Beatles / Let It Be

When I find myself in times of trouble	僕が苦境にたったとき
Mother Mary comes to me	マリア様が現れて
Speaking words of wisdom,	叡智の言葉をくれるんだ
let it be	「そのままがいい」(=「神のご計画に委ねなさい」)

And in my hour of darkness	暗闇に包まれた時
She is standing right in front of me	彼女は僕のすぐ目の前にいて
Speaking words of wisdom,	叡智の言葉をくれる
let it be	「そのままがいい」

Let it be, let it be	それで大丈夫
Let it be, let it be	無理に変えようとしなくていい
Whisper words of wisdom,	叡智の言葉をささやくんだ
let it be	「そのままがいい」

And when the broken hearted people	世界中にいる 傷心の人々が
Living in the world agree	みんな 心を一つにすれば
There will be an answer,	答えはすぐそこに見えるだろう
let it be	「そのままがいい」

For though they may be parted	彼らは離ればなれになってしまうかもしれない
There is still a chance that they will see	でもまた会えるチャンスだってまだ残っている
There will be an answer,	答えはそこにあるだろう
let it be	「そのままがいい」

Let it be, let it be	そのままがいい
Let it be, let it be	無理に変えようとしなくて大丈夫
Yeah there will be an answer,	答えはきっとそこにあるだろう
let it be	「そのままがいい」

Let it be, let it be	それで大丈夫
Let it be, let it be	無理に変えようとしなくていい
Whisper words of wisdom,	叡智の言葉をささやくんだ
let it be	「そのままがいい」

And when the night is cloudy	暗闇に包まれる夜でも
There is still a light that shines on me	僕を照らしてくれる一筋の光がある
Shine on until tomorrow,	明日まで輝き続けておくれ
let it be	「そのままがいい」

I wake up to the sound of music	音楽の響きに目覚めると
Mother Mary comes to me	マリア様が現れて
Speaking words of wisdom,	叡智の言葉を話してくれる
let it be	「そのままがいい」

Yeah let it be, let it be	そのままがいい
Let it be, yeah let it be	無理に変えようとしなくて大丈夫
Oh there will be an answer,	答えはきっとそこにあるだろう
let it be	「そのままがいい」

Let it be, let it be	それで大丈夫
Ah let it be, yeah let it be	無理に変えようとしなくていい
Whisper words of wisdom,	叡智の言葉をささやくんだ
let it be	「そのままがいい」

(社会学部教授・宗教主事)